博士前期課程（修士）/ 助産看護学領域 / 助産看護学分野科
目コード：280012

助産実践実習Ⅰ-1（正常 ・継続） Midwifery Practicum Ⅰ-1(Normal/ Continuity of Care)

担当教員	亀田 幸枝、曽山 小織、河合美佳					
実務経験						
開講年次	1年次後期	単位数	5	授業形態	実習	
必修・選択	選択	時間数	225			
該当ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ	(1)		(2)	◎	(3)	○
Keywords	ローリスク妊産婦・新生児、妊婦健康診査、助産師外来、分娩介助、産後の母子健康診査、母乳育児支援、健康相談、継続事例					
学習目的・目標	学習目的: 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期において、ローリスク母子とその家族に対し、助産師としての職業倫理に基づき、女性中心のケア（尊重・安全・パートナーシップ・ホリスティック）および家族中心のケアを基盤に、各期の連続性と個別性を重視した根拠に基づく助産実践ができる。 2. 様々な助産の場や人々との関わりを通して、専門職としての役割と行動を理解し、多職種との連携を図りながら助産師としてのアイデンティティを育むことができる。 学習目標: 1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象に対し、生理的経過と健康状態を促進する助産過程（観察・アセスメント・助産診断・計画立案・実施・評価）を展開できる。 2. 妊娠期から産褥・新生児期まで、助産の対象を継続的・総合的に捉えて助産過程を展開し、助産実践と助産師としての役割・責務を理解できる。 3. 職業人として助産師の果たすべき役割行動をとり、母子とその家族を支援するチームメンバーとして自己の助産実践の課題を明確にできる。 4. 自己の助産師像をイメージし、助産観を具体的に表現できる。					

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
	妊娠期実習 助産外来等でローリスクまたは正常経過の妊婦に対して妊婦健康診査を実施する。 分娩期実習 1. 正常経過の産婦の分娩期の助産診断を行う。 2. 分娩進行に伴う産婦と家族へのケアを実施する。 3. 継続事例産婦を含む産婦の分娩介助を10例以上行う。 4. 出生直後の母子接触、早期授乳、分娩想起への支援を行う。 産褥・新生児期実習 1. 褥婦の産後の回復を促進するケアを行う。 2. 新生児の胎外生活適応を促進するケアを行う。 継続事例実習 妊娠期から分娩期、産褥・新生児期まで継続して母子を受け持ち、母子の健康診査と保健相談、家族を含めた健康教育を行う。 ＊ 詳細は実習要項参照	実習	亀田 曽山 河合

教科書	各種講義で使用したテキスト
参考図書等	随時紹介する
評価方法・基準	ポートフォリオ（実習記録、自己学習資料）、実習態度等から総合的に判断する
関連科目	助産診断・技術特論演習Ⅰ（妊娠期）、助産診断・技術特論演習Ⅱ（分娩期）、助産診断・技術特論演習Ⅲ（産褥期・新生児期・乳幼児期）、助産診断・技術特論演習Ⅳ（ハイリスク）、助産実践実習Ⅰ-2（正常）
教員から学生へのメッセージ	助産実習では、分娩介助だけでなく、妊婦、褥婦、新生児の包括的な健康診査と助産ケアを学びます。 妊娠と出産は生理的な変化の連続です。健康な状態を維持・促進し、異常を予防するケアの実践に取り組みましょう。 継続事例実習を通じて、対象を総合的に理解し、助産師としての専門性とやりがいを探求してください。